

平成28年6月7日

農作物生育・技術情報2号

日高農業改良普及センター日高西部支所
JAびらとり JA門別町

1 水稻生育状況と技術対策（6月1日現在）中苗

移植後好天気が続いたことで活着は早まり、生育は順調に経過しています。ただし、高い気温が続いたため、透排水性の悪い水田は「ワキ」が発生しています。「ワキ」は根を傷め生育にも影響しますので、軽い中干しや水の入れ替えなど、排水対策を行いましょう。

品種名	生育状況			技術対策
	項目	28年	平年	
ななつぼし	草丈	17.2cm	15.1cm	・初期生育向上のため、茎数確保に努める。 水田は25℃以上の水温を目標に管理し分けつを促す。 ・活着後は気温が高く日照のある時は3～4cmの浅水に、低温や強風時は7～10cm程度のやや深水管理にする。
	葉数	4.3葉	4.1葉	
	茎数	89本/m ²	94本/m ²	
	活着期	5/29	5/30	
	遅速日数	+1	-	

〈除草剤は適期に散布する〉

初期剤（土壌処理剤）の処理をしていない水田では、移植作業後ノビエやホタルイ等の雑草が目立ってきます。初中期一発剤を予定している方は早めに処理しましょう。除草効果を高めるために散布時は完全に止め水とし、散布後4～5日間は田面を露出させず湛水を保つようにしてください。

2 牧草生育状況（6月1日現在） ～ 牧草の生育は平年並 ～

作物名	生育状況			遅速日数	摘 要 (作業期節・特記事項)
	項目	27年	平年		
牧草(苜蓿)	草丈(1番草)	65.0cm	60.4cm	+2	生育は平年並です

チモシーの生育は平年並ですが、オーチャードグラスは既に出穂揃いとなっています。

一番草確保量は重要ですが、牧草栄養価を重視し、最終の刈取り時期が大幅に遅れないように注意してください。また、収穫時は「刈り高10cm程度の高刈り」を推奨しています。高刈りにより、土砂の混入防止や二番草の再生促進及び増収が期待できます。

3 サイレージ用とうもろこしの雑草対策（茎葉処理の場合）

茎葉処理の場合、薬剤ごとに使用時期が決められており、効果を高めるためには圃場の観察が重要です。最近、圃場によってはイチビやイヌホウズキ等の強害雑草が見られるようになりました。これらの雑草にはアルファード液剤がお勧めです。

〈代表的な茎葉処理剤の使用時期〉 詳細はJA資材課、普及センターまで問合せてください

商品名	対象雑草	使用時期
ゲザノンフロアブル	イネ科雑草、広葉雑草	作物の2～4葉期
ワンホープ乳剤 ※	イネ科雑草、広葉雑草	作物の3～5葉期
アルファード液剤	イチビ、イヌホウズキ、他	作物の3～5葉期 (イチビは6～7葉期)

※適応品種以外に使用しないこと。

4 主要野菜の生育状況と技術対策

(1) 各作物とも育苗中及び定植直後は、夜間の低温対策と日中の高温対策に注意した温度管理に努めてください。

(2) 農薬散布の際は飛散防止に万全な対策を行いましょう。

作物名	生育状況	技術対策
トマト ハウス桃太郎 CF桃太郎ファイト CFハウス桃太郎	<ul style="list-style-type: none"> 3月定植は1～2段目の収穫中。7～8段花房が開花。4～6段花房のがく枯れ症状が一部ほ場で見受けられる。 4月定植は1段目の収穫中。5段花房が開花。 灰色かび病、アザミウマ類の発生が一部ほ場で見受けられる。 4段花房の前後葉から上位葉にかけて葉先枯れ症状が発生している。 6月定植の育苗管理では、日中の急激な高温で萎れやすくなっていたり、苗ずらしが遅れているものが見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3～4月定植は着果数が増加し着果負担が大きくなるとともに土壌水分の吸収量も増加するので適切なかん水・追肥を行い、果実肥大を促進させる。 草勢に応じて、1回の追肥量は窒素成分で1～2Kg/10aを目安とする。窒素施用量を多くするとすじ腐れ果や尻腐れ果の発生を助長するので注意する。 カリ欠による葉先枯れ症状発生ほ場ではカリ肥料の追肥を行う。 気温較差が大きい場合はハウス内が過湿になりやすく、灰色かび病が発生しやすいので、換気や送風により湿度管理を行う。病気果等は早めに摘果する。 6月定植の育苗では萎れ防止の少量かん水、苗ずらしを行う。
ハウス軟白ねぎ 北洋、春扇等	<ul style="list-style-type: none"> アザミウマ類、ハモグリバエ類の発生が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ハウス周辺の雑草、(特にクローバ類)の除草を徹底する。また収穫残渣を除去する。
アスパラガス スパークェルカム	<ul style="list-style-type: none"> 立茎～夏芽収穫中。 アザミウマ類、褐斑病、灰色かび病が発生している。 	<ul style="list-style-type: none"> 粘着版の設置で早期の防除を心がける。 灰色かび病は樹を軽くゆすり、老化花弁を落とす。
かぼちゃ みやこ	<ul style="list-style-type: none"> 5月中旬から定植が開始され順調に生育している。 	<ul style="list-style-type: none"> 葉の枯れ込みが多い場合、樹勢が弱まり、病害の発生等が心配されるため、生育の回復に努めましょう。

* 日高管内でネギアザミウマに対する合成ピレスロイドの抵抗性が確認されました。この抵抗性は抵抗性の強いタイプⅣです。今後は合成ピレスロイド系薬剤の連用を避け、ローテーション防除を行いましょ。

5 畑作の技術対策

(1) 秋まき小麦

出穂期を迎えています。「防除ガイド」を参考に赤かび病防除を行いましょ。

低タンパクが懸念されるほ場では、防除ごとに葉面散布を行いましょ。

【例】 尿素2%溶液 3回程度

(2) 大豆 (わい化病対策)

大豆の種子塗沫処理にクルーザー FS30、又は、クルーザー MAXX を使用していない場合は、初生葉展開時から2回の茎葉散布でアブラムシの防除を行いましょ。

(3) ばれいしょ

萌芽揃いの1週間後に中耕兼ねて半培土、その1週間後に本培土を実施しましょ。

本培土が遅れると根やストロンの切断につながるので注意する。

◎農薬の使用に際しては使用方法と使用上の注意事項を必ず確認しましょ。

◎農作業の合間には必ず休息をとり、疲労回復を図りましょ。

